

令和6年度 第2回座間市地下水採取審査委員会会議録

- 1 日 時 令和6年10月22日（火） 15：00～
- 2 場 所 オンライン開催
- 3 出席者 委 員 守田委員長、中島副委員長、宮下委員、大木委員
事務局 暮らし安全部長、生活安全課長、副主幹兼環境保全係長、主任、
主事

4 公開の可否 公開 一部公開 非公開

5 傍聴者 1名

6 議 題

- (1) 令和6年度座間市地下水保全基本計画改定業務委託及び座間市
地下水総合調査事業委託－中間報告－について
- (2) 有機フッ素化合物分析 地下水調査の結果について
- (3) 有機フッ素化合物分析 排水路調査の結果について
- (4) その他

7 配布資料

- 資料1 令和6年度座間市地下水保全基本計画改定業務委託及び座間市
地下水総合調査事業委託－中間報告－
- 資料2 アンケート回答集計（市民）
- 資料3 アンケート回答集計（事業者）
- 資料4 令和5年度調査計画
- 資料5 地下水・湧水中の有機フッ素化合物分析結果（9月分）
- 資料6 市内分布結果表
- 資料7 市内分布結果図（非公開）
- 資料8 排水路中の有機フッ素化合物分析結果
- 資料9 排水路調査図

8 議 事

- (1) 令和6年度座間市地下水保全基本計画改定業務委託及び座間市地下水総合調査事業委託－中間報告－について

① 事務局説明

今年度行っている座間市地下水保全基本計画の改定作業について、中間報告を行います。

なお、報告は当該事業の委託事業者から説明をします。

何か質問があれば、よろしくお願ひします。

② 質疑応答

・宮下委員

市内の雨水浸透ますの分布状況について、アンケートの結果で把握しているようですが、市で実施している補助事業などで把握はされていないのでしょうか。

・事務局

市の補助事業を利用された場合は把握をしているのですが、補助事業の利用については年間で10件にも満たないものです。したがって、アンケート結果のような100件を超えるような値は把握していないところです。

・宮下委員

そうすると、雨水浸透ますについて課題となってくるのは設置されている数もそうですが、それがきちんと維持されているかというところなので、そのような部分でアンケートが生きてくると思います。可能であれば設置状況と維持状況をリンクした考察がアンケートを活用してできればいいと思います。

・守田委員長

座間市の雨水浸透ますの設置率については、以前の調査で5割を超えているというデータを聞いていた。小金井市にも匹敵する素晴らしい設置率と思っていたが、今回のアンケート結果によると設置率がそれよりもずいぶん低く出ているので、以前のデータと今回のアンケート結果についての整合性について検証していただきたい。

例えば、雨水浸透ますが密集地に今後どのくらい設置がされればかん養に効果があるかなどシミュレーションも行っていくので、設置率については更なる検証をお願いしたいと考えています。

・事務局

資料の補足です。雨水浸透施設の設置状況について、アンケートを行っているところですが、実地調査についても検討を行っているところです。

・守田委員長

雨水浸透ますの設置率については、私の知る限りどの自治体も正確に把握していないというところが現状です。座間市にはその把握について期待していますので、よろしくをお願いします。

・中島副委員長

浸透能調査について確認したいのですが、浸透初期から終期浸透能まで測るような調査でしょうか。また解析の中にはどのように反映させるのかをお伺いします。

・事務局

まず、浸透能調査ですが、浸透初期から十分な時間が経過するまでの浸透状況を計測する予定です。

また、解析への反映についてですが、現在の GETFLOWS に以前調査した際のパラメータが入っておりますので、そこを更新する予定です。

・中島副委員長

併せて確認ですが、主に渇水期を中心に解析を行うということですが、年間通して行うときに昨今の線状降水帯等が発生したときは地表面等については一定値以上浸透しないような設定になっているのでしょうか。

・事務局

おっしゃっていただいたとおり、一定値以上は入らないような浸透条件になっています。

・中島副委員長

承知しました。では、ある程度現実のものに近いということですね。

もう1点お伺いします。先ほど「100分の1渇水年」と言われたのですが、渇水年というのは雨水量が減っているという感じなののでしょうか。

・事務局

はい。過年度調査のシナリオで渇水について2パターンを想定しておりまして、1つ目は平水年の降雨量を均等に縮小した条件、2つ目は近年のゲリラ豪雨が発生するような気候変動に対応するために、降雨が続く期間と無降雨期間が続く期間が交互に訪れる条件です。

今年度の解析でも、その2パターンの条件をお見せできるかと思えます。

・守田委員長

渇水の確率というのはなかなか難しいと思います。近年、計画をはるかに超える豪雨の状況が目立つが、気候変動が進めばとんでもない渇水というのも起こりうると考えられます。

今回の解析では、確率的にはどのように設定したのかを報告書の中で詳しく説明をしていただきたいと思います。

例えば、平成6年などの大規模な渇水年と比較してどのくらいの設定なのか、想定される渇水はどのくらいなのかをわかるように工夫をしていただきたいと思います。

・事務局

承知しました。

・中島副委員長

先ほどのアンケート結果において、地下水への関心について若い方になかなか浸透していないようでしたが、座間市では若い世代への啓発活動は行われているのでしょうか。

・事務局

直近ですと、湧水ツアーというイベントを行いました。市内の湧き水を巡って地下水の大切さをアピールするというイベントです。

今回募集の際に、広報紙等以外にも小学校でチラシを配布しました。

おかげさまで好評で、即日満員となりました。

・中島副委員長

どうしても湧水ツアーなどを行うと、割と年齢層が高めになってしまうので、若い方、学校へのアピールは良い行いだと思います。ありがとうございました。

(2) 有機フッ素化合物分析 地下水調査の結果について

① 事務局説明

有機フッ素化合物分析について、9月に地下水の調査を行いました。

その結果、西栗原の井戸で暫定目標値を超える値が検出されました。

なお、この地点は、昨年度超過した地点と同地点です。

この結果をもって、今年度2回目の調査は1月頃に同6地点で行う予定です。

来年度については今後の調査結果にもよりますが、今回超過した井戸1地点、その他市内全域の分布状況を把握するため5地点、計6地点で年2回調査を行う予定です。

本日は、今回の調査結果及び来年度の調査内容について、委員の皆さまのご意見を伺えればと思います。

② 質疑応答

・中島副委員長

昨年度の調査の時に西栗原の結果が9月から1月にかけて濃度が上がっていたので季節変化かどうか、今回の結果を注視しましょうというところでした。

今回まだ上がっているので、これが微増傾向なのか、差が下1桁程度の話なのでほぼ平行で誤差の範囲なのかというところです。

上流の方はどんどん濃度が下がっているので、通過している段階という事なのか、引き続きこの地点はモニタリングを継続していければいいのかなと思います。

・事務局

ありがとうございます。

事務局としましても、今回の結果を受けて、これまで同様1,000ng/Lを超過するような高濃度な有機フッ素化合物は検出されていませんが、暫定目標値を超過していなくても20ng/L程度の濃度が検出されている地点が多いことから、点源的な問題ではなく広く面的に分布されている状況であると考えています。

したがって、冒頭申し上げたとおりですが、引き続き市内の分布状況の把握に努めるべきと思っていますので、来年度も市内6地点で年2回の調査を行いたいと考えております。

・守田委員長

はい、よろしくお願いします。

・事務局

令和4年度にも1度お伺いをした内容ですが、本市の北側に位置する相模原市南橋本で令和4年度以降継続して1, 500 ng/L前後の有機フッ素化合物が検出されている井戸がございます。

水循環による解析と地下水汚染の解析は異なりますので、本市の地下水への影響は正確に把握することは出来ないと考えておりますが、この問題の対応としては、これまで同様相模原市と情報を共有しながら、市内の分布状況の把握に努めることが必要と事務局としては考えているのですが、何かご意見がありましたらお伺いしたいのですがいかがでしょうか。

・中島副委員長

おそらく、相模原市南橋本の調査地点の地下には有機フッ素化合物が現存していると思うのですが、座間市の立場としては市内の最上流側のモニタリングをして濃度に変化が起きるかを引き続き監視をしていくということによろしいかと思えます。

あとは、相模原市が継続して濃度の高い地点に対してどのように対応するかということだと思います。

(3) 有機フッ素化合物分析 排水路調査の結果について

① 事務局説明

有機フッ素化合物分析について、9月に排水路の調査を行いました。

その結果、2地点中1地点で暫定目標値を超える値が検出されました。

なお、この地点は、昨年度超過した地点と同地点です。

来年度も同2地点で年1回の調査を行う予定ですが、今回の調査結果及び今後の調査内容について、委員の皆さまのご意見を伺えればと思えます。

② 質疑応答

・中島副委員長

昨年度の結果にあった負荷量を示していただきたいのですが、恐らく上流から下流にかけて負荷量が減少していると思います。そのため、排水路から南側の地下水に関して経過観察がいるかと思えます。

・事務局

負荷量についても把握はしており、おっしゃるとおり上流から下流にかけて減少しております。今後その影響については、近隣で地下水を採取できる地点を探し、調査を検討します。

現在確認中ですので、今後の対応については検討させていただきます。

・宮下委員

来年度も同地点で年1回調査する予定とのことですが、調査結果を見ますと昨年度と比較すると今年度は流量が約3～5倍あります。

おそらく、昨年度の結果が最も少ない流量の時点だと思いますので、これより少ない流量というのは難しいと思いますが、データを積み上げるためには様々な流量の時点で調査を行うとより色々なデータが取れるかと思います。ただ雨水管ですので、あまりにも流量が多いと危険が伴いますので、そこは危険のない範囲での作業をお願いします。

・事務局

今回で2回目の調査で、流量データも2つ積みあがっていますが、来年度以降も流量については調査をすべきでしょうか。

・宮下委員

昨年度は、下流の流量が上流の約2倍となっていますが、今年度はほぼ等倍となっています。

この結果は実測値なのでもちろん尊重しますが、昨年度と今年度で傾向が違っているので、こういった傾向の違いで測定の誤差になってしまっている可能性があります。したがって来年度も流量について測定し、データを積み上げるべきだと思います。

・事務局

承知しました。ありがとうございます。

・守田委員長

有機フッ素化合物の議題について、委員の方から貴重なご意見をいただきましたので、事務局はそれらを考慮しながら、より正確な把握に努めていただきたいと思います。